

八月十五日の終戦記念日は旧盆と重なり、祝日でもないのに、この日を中心に休むことが慣習になっています。暑さの盛りなので夏休みをとるにはちょうど良い時期です。

ウィキペディアによれば、「お盆とは、日本で夏季に行われる祖先の霊を祀る一連の行事。日本古来の祖霊信仰と仏教が融合した行事である。かつては太陰暦の7月15日を中心とした期間に行われた。明治期の太陽暦(新暦)の採用後、新暦7月15日に合わせると農繁期と重なって支障が出る地域が多かったため、新暦8月15日をお盆(月遅れ盆)とする地域が多くなった。」とあります。

因みに仏教行事のお盆は『孟蘭盆経(うらぼんぎょう)』という經典によるものであり、仏弟子の目連が餓鬼道に落ちて苦しんでいる母親を救うために、釈迦の教えで、七月十五日に修行を終えた僧侶を百味、百果の飲食を供えて供養したところ、その功德により母親を餓鬼道から救済することができたという孝行説話に基づくものだそうです。

[最近目立つ病気]

6月からはじまった手足口病の大流行は8月に入って漸く下火になりました。手足口病は1年中みられますが、夏に流行しやすいので夏風邪の一種です。エンテロウイルス属のコクサッキーA群ウイルスが主な病原ウイルスです。今夏の流行の中心はコクサッキーA6でした。近年流行するウイルスで、以前はヘルパンギーナの原因ウイルスでした。発熱初日にヘルパンギーナと診断して、翌日に手足・お尻に発疹が出たと再受診されて手足口病とわかるケースが多かったです。

手足口病もヘルパンギーナも同じ夏風邪の一種であり、いずれも対症療法しかありませんので、区別する必要はなさそうです。発疹の程度の個人差が大きかったのも今年の特徴です。手足や臀部・外陰部ばかりでなく胸部、腹部、背部、腰部にも見られた児、水痘やとびひと間違えてしまいそうな児もいらっしゃいました。罹患後1か月ほどで手足の爪が剥がれてしまった児も数人いらっしゃいました。高熱は1~2日間ほどで解熱しますが、急激な体温上昇で熱性けいれんを起こした児も目立ちました。口内炎の痛みため飲食ができなくなる児も多かったです。

RSウイルス感染症が真夏にもかかわらずみられています。最近のRS感染症は季節性がみられなくなり年中流行をくりかえしています。生後半年以内の児がかかると、重症化しやすく入院が必要になることもあります。また、咳がなかなか治らない年長児や成人で百日咳の方がいらっしゃいます。この病気も乳児がかかると重症となるので注意が必要です。年長児や小中高生や成人の方は軽い風邪症状でも乳児に接する時はマスクをして感染予防に努めましょう。

他には、溶連菌感染症、アデノウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症(RSウイルス感染症と似た症状)、EBウイルス感染症や胃腸炎がみられています。胃腸炎はカンピロバクターやサルモネラ菌による食中毒のこともありますので注意が必要です。

[百日咳]

百日咳は、特有のけいれん性の咳発作(痙攣発作)を特徴とする急性気道感染症です。母親からの免疫(経胎盤移行抗体)が十分でなく、乳児期早期から罹患する可能性があり、1歳以下の乳児、特

に生後6カ月以下では死に至る危険性もあります。百日せきワクチンを含むDPT三種混合ワクチン(ジフテリア・百日咳・破傷風)あるいはDPT-IPV四種混合ワクチン(ジフテリア・百日咳・破傷風・不活化ポリオ)接種は、わが国を含めて世界各国で実施されており、その普及とともに各国で百日咳の発生数は激減しています。しかし、ワクチン接種を行っていない人や接種後年数が経過し、免疫が減衰した人での発病はわが国でも見られており、世界各国でいまだに多くの流行が発生しています。

臨床経過は3期に分けられます。

1)カタル期(約2週間持続):通常7~10日間程度の潜伏期を経て、普通のかぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。

2)痙攣期(約2~3週間持続):次第に特徴ある発作性けいれん性の咳(痙攣)となります。これは短い咳が連続的に起こり、続いて、息を吸う時に笛の音のようなヒューという音が出ます(笛声)。しばしば嘔吐を伴います。発熱はないか、あっても微熱程度です。息を詰めて咳をするため、顔面の静脈圧が上昇し、顔面浮腫、点状出血、眼球結膜出血、鼻出血などが見られることもあります。非発作時は無症状ですが、何らかの刺激が加わると発作が誘発されます。また、夜間の発作が多いです。年齢が小さいほど症状は非定型的であり、乳児期早期では特徴的な咳がなく、単に息を止めているような無呼吸発作からチアノーゼ、けいれん、呼吸停止と進展することがあります。合併症としては肺炎の他、発症機序は不明ですが脳症も重要な問題となり、特に乳児で注意が必要です。

3)回復期(2~3週~):激しい発作は次第に減衰し、2~3週間で認められなくなりますが、その後も時折忘れた頃に発作性の咳が出ます。全経過約2~3カ月で回復します。

学校保健安全法における出席停止期間は、特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌薬療法が終了するまでとされています。ただし、病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めたとときは、この限りではありません。

(国立感染症研究所ホームページ参照)

[エボラ出血熱]

アフリカ中部、コンゴ民主共和国で流

行が続くエボラ出血熱について、WHOは開発中の2種類の薬が臨床試験で治療に効果があることを示したと発表しました。アフリカ中部のコンゴ民主共和国では、東部の北キブ州などで2018年8月からエボラ出血熱が流行し、これまでにおよそ2800人の患者が確認され、およそ1900人が死亡しています。

WHOは2018年11月からエボラ出血熱の治療に効果がある可能性のある薬の臨床試験を行っていましたが、2019年8月12日、2種類の薬が優れた効果を示したと発表しました。研究チームによりますと、臨床試験は4種の薬でおよそ700人の患者を対象に行われ、アメリカの製薬会社が開発した「REGN-EB3」を投与された患者の死亡率は29%、アメリカ国立アレルギー・感染症研究所が開発した「mAb114」では34%で、ほかの2種類の薬と比べて顕著な違いを示したということです。また感染の初期で血液中のウイルス濃度が低い段階で投与を受けた患者の場合、90%が生存したということです。臨床試験に携わった医師は「どちらの薬も高い効果を示していて、患者の治療に向けた大きな前進だ」と述べていて、流行の収束につながる事が期待されています。



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター(TEL:222-0099)では午後7時30分から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は10/6・12/15の予定です。なお、10月20日は当番医です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチン(ロタウイルス・おたふくかぜ・インフルエンザ・B型肝炎)についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

